

萩青年会議所との
交流会
11月8日(水)に「萩青年会議所との交流会」が開かれました。

普段、交流する機会が少ない人たちとの交流は、非常に有意義なものでした。

食事やレクリエーションを通して、萩市の経済活性の内容をはじめ、業務に関する話や日常生活などの様々な会話をしました。より一層、親交を深めることができたと感じております。

今後も、萩商工会議所青年部の一員として、研鑽に努めたいと、強く意識をした一日になりました。

萩青年会議所の皆様、本当にありがとうございました。

土岐 春樹



青年部

踊車

No.452
萩商工会議所
青年部



現会員数29名

11月全員協議会

11月22日(水)に11月全員協議会が開催されました。

今回は会員同士の親睦を深めるため、ユーズボウル萩に場所を移しボウリング全協と題して行われました。

協議会終了後3～4人ずつフレームに入りゲームスタート。ストライクやスペアが出た時には歓喜の声とハイタッチ、ガタターや1本だけ残ったときは『あー』という落胆の声が聞こえる中ゲームは進み、優勝は中村君でした。

榎谷 紘司



服部 和彦

岩国商工会議所青年部 40周年記念式典

11月25日(土)に岩国商工會議所青年部40周年記念式典および記念祝賀会に白井監査と2名で出席しました。

記念式典においては前回の周年から就任された歴代の会長に感謝状が授与され、書道パフォーマンスで会場を盛り上げました。記念祝賀会でも地元の団体祝宴などが執り行われ、終始楽しい時間を過ごすことができました。萩商工会議所青年部も私が55年目が終わります。次の60年に向けて、しっかりと残りの時間で次年度にバトンを渡せるように頑張っていきたいと思います。

新入会員募集中!!
一緒に活動しませんか

所属する会社が萩商工會議所に加入しております、なおかげ40歳までの若手経営者、あるいは、有望な人材の方がいらしたら、青年部で己を磨きませんか?多くの異業種の方との交流、様々な青年部事業の運営を通してスキルアップと一生の友を作つてみませんか?学んだことは必ず自身に役立ちます。また、ご不明な点がございましたら、青年部事務局や現役青年部会員にお問い合わせください。

△25-33333 担当瀧
青年部事務局





平素より萩商工会議所
青年部の活動にご理解ご
協力を賜わりまして感謝
申し上げます。私たち青
年部が、どんな活動をし
ているのかを多くの方に
知つていただきたいと思
い本年度1年間を通して
青年部活動についてご紹
介いたします。

元京セラ・KDDI創業
者会長の稻盛和夫氏の著書
に、人には3つのタイプが
ある

- 火を近づけると燃え上がる可燃性
- 火を近づけても燃えない不燃性
- 自分で勝手に燃え上がる自然性

物事を成すには自ら燃え
上がり、さらにそのエネルギーを周囲にも分かち与え
る人間になることです。

家業を継ぐ為、高校卒業
後愛知県で4年間修業した
後、萩に帰り23才から41才
まで19年在籍させていただ
きました。当時青年部のメン
バーの方には、周囲から
何も言われなくとも自燃燃
え上がる可燃性タイプの人
がいる一方で、周りから工
業部副会長をされている、
萩テレビ(株)の上利祥悟君
にお話を伺いました。

今回はO·B·O·Gの方
と現役会員に青年部に入
つてよかつたことなどを
聞いていく【だから私は
青年部】という企画の4
回目です。第40代会長を
されました、伊勢島修石
材店代表伊勢島紀行様
と本年度萩商工会議所青
年部副会長をされている、
萩テレビ(株)の上利祥悟君
にお話を伺いました。

卒会後は会議所議員・ロ
ータリークラブと活動範囲
が広がり、毎日忙しいです
が充実した日を過ごしてい
ます。これもすべて青年部
の時の先輩・同期・後輩の
方がご縁で今の自分がある
事に感謝いたします。青年
部での経験が今、役に立つ
事は言うまでもありません。

若い時にたくさんの方と
出会い、自分の世界を広げ
ていいってほしいと思います。
冒頭に掲げた「志」とは
「ふるさとのために行動す
る」ということです。

私は萩で生まれ育ち、大
学4年間を東京で過ごした
た。ただ、不燃性と思われ
た人も何かのきっかけで可
燃性になつていての方も多
く、青年部でのたくさんの
方の出会いが行動も考え方
も自身を成長させてくれる
のだと思いました。

青年部の1番のメリット
は「志を共にする仲間がで
きること」だと思います。
私はサラリーマンの立場
で青年部に所属しております。
入会したのは会社側から
の打診がきっかけでした。
当時、社会人3年目だ
った私は、青年部がどんな
団体かも分からず、不安な
思いで会合に出席したのを
覚えてます。いざ入会し
てみると、周りの会員は
「代表取締役」や「常務」
など、立派な肩書きを持つ
方々が多く、恐縮な思いで
したが、皆平等に接して頂
き、徐々に「自分は萩の經
営者たちと肩を並べて活動
しているんだ」という想
が芽生え、自らの自信へと
繋がったように思います。

私は萩で生まれ育ち、大
学4年間を東京で過ごした
後、自身のふるさとのため
に仕事をしたいと考え、地
元メディアに就職しまし
た。青年部に集まるメンバ
ーは、業種や世代は違えど
う同じ志を持って活動して
います。しかしながら現在、
会員数の減少が喫緊の課題
となつており、共に活動し
てくれる仲間を募集してい
ます。私は自らの経験から
「サラリーマンこそ青年部
に入るべきだ」と感じてい
ます。地元企業の代表者の
皆様には、是非とも若手社
員の育成という観点から
も、当会への入会をご検討
頂きたいと思います。

萩テレビ(株)

上利 祥悟

